

# これからの社会における スポーツの役割と可能性

## —NOBYが拓くスポーツの新たな地平

石井 智

大阪ガス(株)近畿圏部

Written by Satoshi Ishii

### 震災後のスポーツ環境

昨年、我が国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、国民生活や企業活動はもちろんスポーツにも大きな影響を与えた。加えてグローバルゼーションが進む中、欧州の財政危機をはじめ世界経済の不安定化のあおりを受け、企業のスポーツ支援が目に見えて減少するなど、日本のスポーツを支える基盤も大きく揺らいでいる。

一方で、女子サッカー「なでしこジャパン」のワールドカップ優勝という快挙は被災地のみならず全国に大きな感動を与え、また、東京をはじめ大阪、神戸などで開催された大規模な市民マラソン大会も“復興支援”を合い言葉にいずれも成功をおさめている。このように、スポーツは今や単なる個人の「楽しみ」「気晴らし」だけにとどまらず、人と人のコミュニケーションを生み、絆を強めて生きる活力を与える存在として、その社会的な価値は一段と高まっている。また、スポーツはその集客力・発信力の大きさから、観光政策や地域振興策としても注目すべきコンテンツになっていると言える。

スポーツ基本法が施行され、基本計画の策定が進められようとしている今、経済面での逆風を跳ね返して日本における新たなスポーツ環境をつくり出していくにはどうすればよいか。本稿では大阪ガスにおける具体的な取り組みを紹介しながら、これからの社会におけるスポーツの役割と可能性について考えてみたい。

### スポーツの価値

まず、スポーツの「価値」について整理しておく必要がある。一般に、スポーツは遊びや気晴らし、エキサイトメントの提供によって社会を活性化したり(社会的価値)、集団にチームワークを醸成して組織能力を向上させるといった(組織的価値)機能を持つ。さらに、体力向上はもとよりスポーツマンシップ等による倫理観の養成など心身両面での教育価値も有する。

中でも私が注目するのは、スポーツを通してフェアプレーやレスポクトの精神を育むという価値で、それこそが健全な青少年育成の根幹であると考えられる。「スポーツは子供を大人にし、大人を紳士にする」と言われるように、スポーツには人を育て成長させる力がある。子どもたちは憧れのアスリートに未来の自分を重ね、少しでもありたい姿に近づこうと努力する。自ら責任を引き受け、仲間を助け、また仲間を助けられながら友情や忍耐力を育む。これらはまさにスポーツならではの価値創造にはかならない。そしてそれを可能にするには、具体的な「場」の創出とそれを継続的に発展させる「仕組み」が必要となる。

こうした理念のもと、2010年4月、大阪ガス社員で北京五輪の陸上競技400mリレー銅メダリストである朝原宣治とともに設立したのが、青少年を対象にした陸上競技クラブ「NOBY T&F CLUB」(以下NOBY…ノビー)である。

## NOBYの挑戦

NOBYでは中学生以上には専門的な技術指導を行うが、こと小学生には基本的には「走る技術」を教えないのが指導方針である。これは、小学生の子どもたちに、形“だけ”を無理やり教え込んでもポテンシャルは高まらないという朝原の考えを反映したものだ。

着実に実を結びつつあるNOBYの指導方法には二つの特徴がある。その一つは、「コオーディネーション理論」と呼ばれる脳科学や運動生理学に基づいた独自のトレーニングである。NOBYでは、コオーディネーション理論が求めるリズムやバランスなど「身体能力の巧みさ」に加えて、「身体と脳を同時に鍛えること」で個人が持つ運動能力や知的能力を総合的に向上させることを目指している。

もう一つの要素は「暗黙知」の獲得である。朝原をはじめとする世界レベルのトップアスリートと一緒にプログラムを実践することで、子どもたちは最高級の手本に接することができ、アスリートが目の前で見せる動きから、直接、暗黙知やオーラを吸収することができる。

さらには、こうしたスポーツ事業と同時に、事業活動を通して社会連携を生み出す「仕組み」づくりを企図しているのもNOBYならではの特徴である。例えば、食事の効果的な取り方やテーピングの仕方を学ぶ講座など、子どもや保護者に対して健康や栄養管理についての正しい知識や情報を伝える活動を行っている。また、地元NPOとの連携によって、子どもたちが生きる力（ライフスキル）を培うことができる各種イベントも開催している。そして、これらの活動は兵庫県や西宮市などの自治体の後援や地元の大学、企業からの協賛・協力に支えられていることも忘れてはならない。

このように、NOBYをインターフェースとして多くのステイクホルダーに情報を発信し、多様で活発なコミュニケーションを生み出すことによって、CSR（企業の社会的責任）の役割を果たすとともに、一種のソーシャル・キャピタル（社会関係資本）として地域社会に欠かせぬ結節点となることができると考えられる。

## スポーツの役割と可能性

スポーツにおいても、今後、グローバル化が進むことは避けられない。そうなれば、世界のルールが統一化・共有化され、公平な競争が可能になる反面、能力や技術に対する評価の「客観化」すなわち「点数化」が加速する恐れもある。それが行き過ぎれば、もちろん様々な弊害が生じることが言うまでもない。

そうした状況を考えれば、スポーツ本来の機能としての「競争」「勝負」という価値を尊重しながらも、スポーツの社会的価値や教育的価値に着目し、「青少年の育成」と「地域のつながり」を何より重視するNOBYの理念や活動は、まさにグローバル時代の時宜にかなったものと言えるだろう。今後も独自のプログラムを整備・マニュアル化し、「NOBYメソッド」として、より多くの青少年に体験してもらえよう努めていきたい。

現在、国や企業のスポーツ支援が厳しい状況にあることは十分承知しているが、将来を担う子供たちの健全な育成にはスポーツと親しむ環境が不可欠である。枯れてしまった夢からは青い新芽は吹かない。企業のスポーツへの参加はまぎれもない社会貢献であり、また、スポーツを通して成長した若者たちが、将来、貴重な産業人材として社会に還流して行くことを忘れてもらいたい。NOBYなどの活動によってスポーツの役割と可能性を拓くこと、それがスポーツに育ててもらった私のミッションだと自覚している。

【参考】NOBY T & F CLUB ホームページ  
<http://www.osakagagas.co.jp/company/efforts/noby/>

石井智 (いしい さとし)

大阪ガス(株)近畿圏部 二元大阪ガス硬式野球部 元同志社大学硬式野球部監督。主な著書は、「スポーツの法と政策」(共著、ミネルヴァ書房)、「スポーツ政策論」(共著、成文堂)など。

